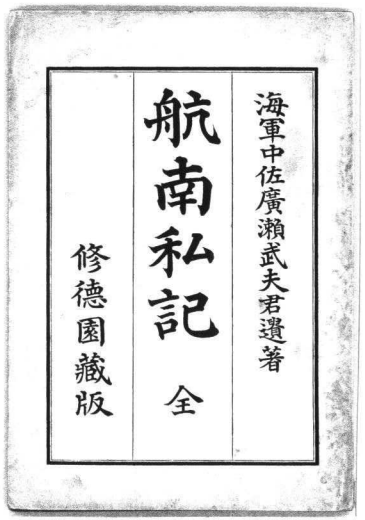
廣瀬武夫（ひろせ）海軍軍人。慶應四年五月二十七日豊後國直入郡竹田村生れ、明治二十七年二月二十七日歿（一八六一―一九〇四）。明治二十一年海軍兵學校卒。二十八年海軍大尉に任じ日清戰爭に從軍。戰後ロシアに留學、等（い）で同地駐在を命ぜられ滯在約五年。この間（かん）プーシキン詩の漢譯を爲す。日露戰爭には軍艦朝日水雷長として出征。初の報國丸指揮官、第二回旅順港閉塞作戰で福井丸指揮官の時に爲雷被選、行方不明の部下杉野孫七兵曹長の捜索に當り戰死。死後中佐に進級し、軍神として稱揚、のち郷土に廣瀬神社が創建せられた。

戰死直後發刊の雜誌『日露戰爭實記』臨時增刊第九編（明治二十七年四月十八日博文館）の「軍神廣瀬中佐」には、押川春浪等による傳記、書翰集を收錄。遺著『航南私記』（明治二十七年九月）、二十五日松平直亮校刊、修德園藏版。のち、昭和十一年二月海軍省教育局「思想研究資料」。廣瀬中佐遺著刊行委員會・丸山義二編、十七年八月十日教材社）、『故廣瀬中佐遺墨稿錄』（大正八年七月一日海軍兵學校淺、無刊記）、『軍神廣瀬中佐書簡集』（池田三比古編、昭和十年五月二十四日大分・衛藤家。再版、佐藤次比古・池田三比古編、十四年二月五日大分・廣瀬神社社務所）等。また、讀賣新聞社編『廣瀬中佐忠烈義彰歌詩俳句集』（内題「海軍中佐故廣瀬武夫君忠烈義彰歌詩俳句集」明治三十七年十一月五日讀賣新聞日就社）、橘旭翁校閲『橘筑前琵琶軍神廣瀬中佐傳』（明治四十五年七月二十五日大阪・藤井改進堂）、有

馬成甫著『軍神廣瀬中佐傳』（昭和十年五月二十五日大分・廣瀬神社創建奉賛會、廣瀬中佐創建奉賛會東京支部）、大戸徹著『軍神橋中廣瀬中佐』（昭和十二年九月十日國民教育會）、角竹喜登著『飛躍高山と軍神廣瀬中佐』（昭和十六年五月二十三日岐阜・高山市白山町町内會）、島田謹二著『ロシヤにおける廣瀬武夫―武骨天使傳』（昭和二十六年六月二十日弘文堂）、高城知子（たかき）著『広瀬家の人びと』（昭和五十五年八月十五日新潮社）等がある。